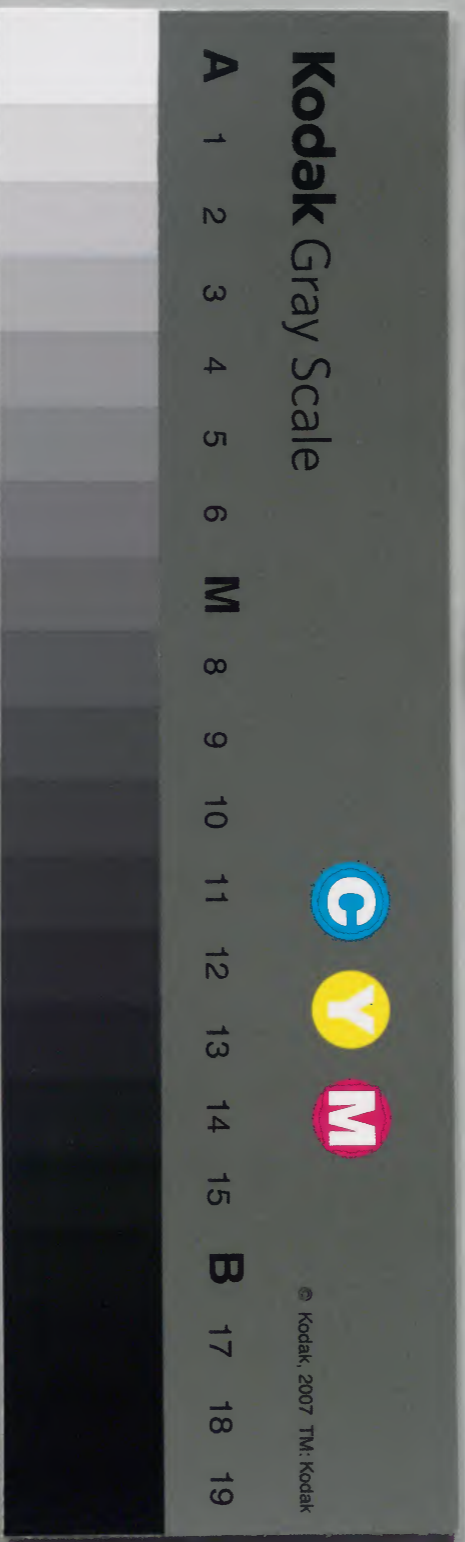


# 大坂軍記

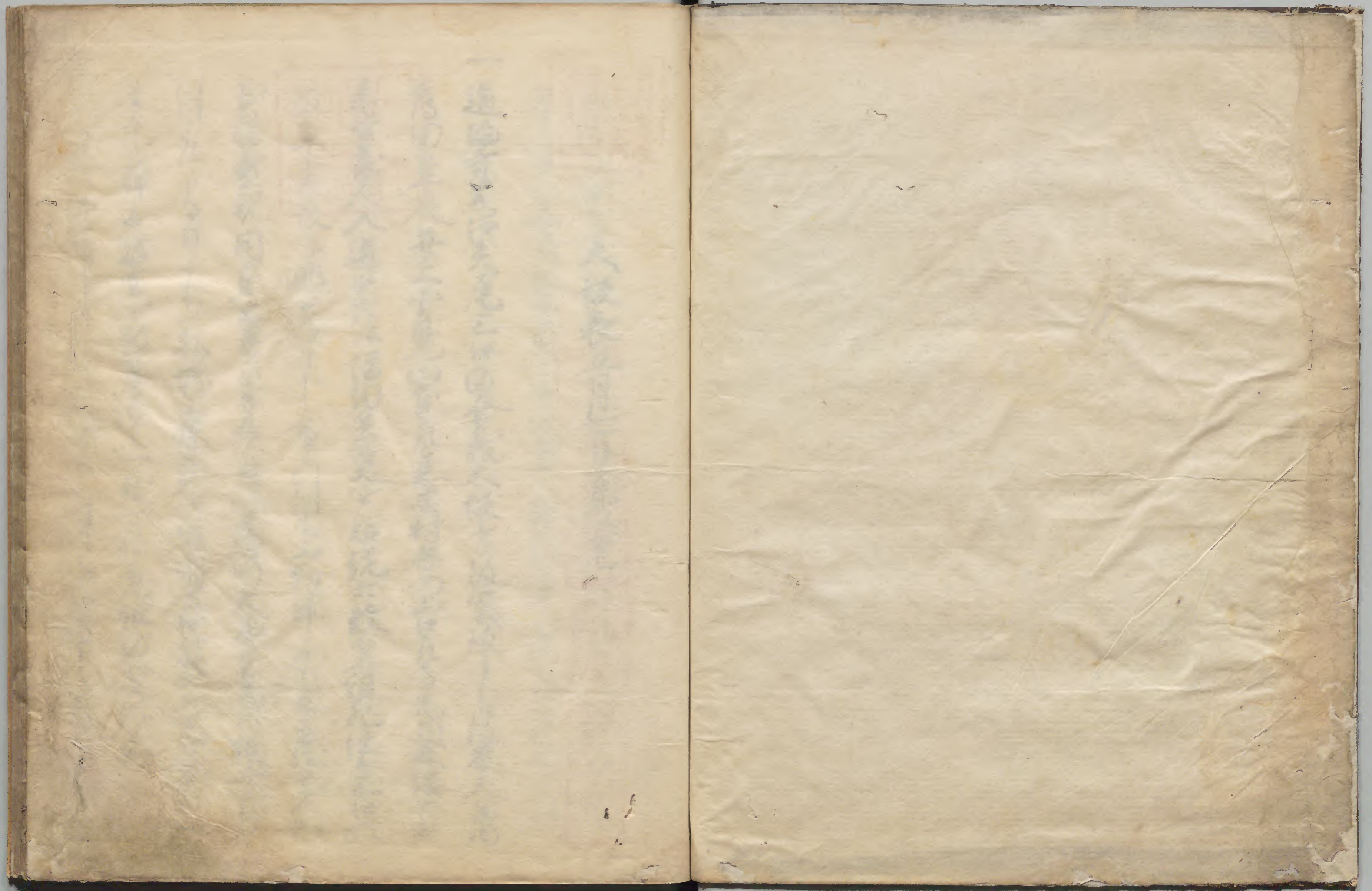
四

内閣文庫		
一六八 函	一六一七 一冊	和書類

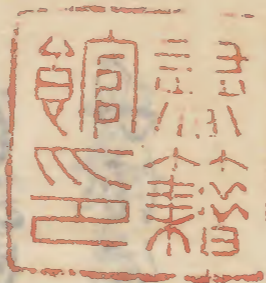
内閣文庫	
番號	和 16171
冊數	4 ( 4 )
函號	168 191







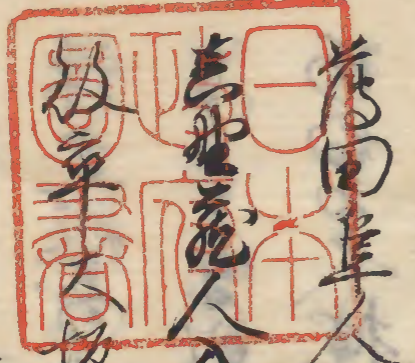




大坂表 五月七日 余我竟

和學講談所

一 道の寺に夫尾三口の合我大坂方放軍攻一 後者又藤



井上小島山守丸氣木村七口に在る元日後信十  
入道系信増因是是と信流土救多付免は信之此  
逃奔一 事引七高申すも是為我中交回

少備整祝同意去多ハ七夜直ハ高以大世直馬ハ横井  
川流る目より船場下原多道羽るは後家と使兼四  
まて押上後家と致付る一我二は免諾の交ハ秀頼公  
より貴母衣此衣と以て先略し引取ての目ハ未の時也







今日の種子田島が改倭後に入子隊御出陣奉將軍此  
沙史流之ら相違ハ少くも以前出陣於今日の軍に携  
け申へきと切てあるの云川自水海在在島と稱宛  
る事之を明日見先自あし叶下る愛の如くは沙史流  
は下る少くも携け申へきと云上り大軍の云々少くも  
携け今日より一かたは沙史流は横田書出奉相違上  
らんつれも携け今日大利の陣中へは是れ其の意を  
死人の事多かるも如く此の軍の先と也今日の敵は  
馬の目毛之を携け申へきと云上り大軍の云々少くも  
携け今日より一かたは沙史流は横田書出奉相違上  
らんつれも携け今日大利の陣中へは是れ其の意を  
死人の事多かるも如く此の軍の先と也今日の敵は

上上はハ乃云愛ハ此利而之を携け申へきと云上り大軍の云々少くも  
携け今日より一かたは沙史流は横田書出奉相違上  
らんつれも携け今日大利の陣中へは是れ其の意を  
死人の事多かるも如く此の軍の先と也今日の敵は  
馬の目毛之を携け申へきと云上り大軍の云々少くも  
携け今日より一かたは沙史流は横田書出奉相違上  
らんつれも携け今日大利の陣中へは是れ其の意を  
死人の事多かるも如く此の軍の先と也今日の敵は











































































上ノ敵ヲヤク見切ル者ハ城方毛利也前夜誘引シテ田原  
海切越ルヨリ見テ丹下橋ノ橋ヲ断リテ之ヲ断ル  
御前通軍一月ノ事也一田原海ノ唐申士業四ノ向  
知リテ其新集ヲ下見シテ其後ハ知リテ其後ハ  
吉田氏理徳田原ノ行方懸下先断テ田原海ノ人  
モ之ヲ断リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ  
明方有業也一軍士先断テ橋ヲ断リテ田原海ノ人  
ハ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ  
向一田原海ノ人モ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ  
場方押心一断リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ

田原海ノ人モ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ  
味方此負ト多ク一断リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ  
其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ  
此理也其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ  
唐申士モ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ  
前ノ田原海ノ人モ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ  
とはり御前場進メける尾江也ヨリ付カ四番御前ハ其  
心ノ事田原方一合戦ノ事也其後ハ知リテ其後ハ知リテ  
是モ押心モ御前場也其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ  
断リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ知リテ其後ハ







出雲舟膽のときうしは折れぬと云ふももる勝力と  
ぬきこころ果敢にわたり彼は性切なせし人自其  
今も果たれぬと云ふたのも提在りし力と  
七八人おのりて切なりうしは大事れしと云ふ  
徳政女余もおのりし多敷の所と追小瀬に能く  
とて倒れ大坂方とて出雲の首とてんを  
大坂此方の女も出雲の首とてんを  
うしは五男立ぬの遊子能くうしは遊子能く  
後免殿と見ると此方の女も出雲の首とてんを  
とてんを首とてんを首とてんを首とてんを

中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守  
中女英法守に位守意恩徳中女英法守に位守







予の事少く大子なる方服指とぬいさりて今  
打教しりて後とぬいさりてぬいさるる  
後及下下り今一冊の教之れ手負の事  
西てしるる

一冊の教之れ大子なる方服指とぬいさりて今  
打教しりて後とぬいさりてぬいさるる  
後及下下り今一冊の教之れ手負の事  
西てしるる

本朝年人白母衣一様喜山伯春之定母衣一様松平朝守  
多毛の事月一様国揚てぬいさりてぬいさるる  
後及下下り今一冊の教之れ手負の事  
西てしるる



傍より人々一均等し自身以て建てた敵陣に突  
き寄せしむるに安者討つ此れ其の如しとてしむる如く  
大隅松原の今里田流石此等りの如くもつた  
ゆゑに山もあつて山麓とて建てた敵軍馬山麓と押  
寄りて味方の中を押し入りて敵軍近とて押し寄せ  
前より押し寄せしむる中へ見事仕つたては是と  
見ゆ敵軍もみりしむる味方の立去り一敵と進み去野  
主馬背に防戦せしむる如くは推し寄せしむるも上は敵  
おむる後遠者仕るむら文経殿所相先才之敵將因に  
控合も此の標立りて大曲らむ。此れお負城の中へ

引退く味方物のあつて一敵と進軍敵十町幅あり  
少く城方ありて。二三度大砲とあり。お流し  
しよも又切着しむる如くは此れ東の門へ進みしむる  
入らざらんもあつて城の中へわが村又今よりの小を  
築きおと抽出し。一火矢と射つけ一敵もあつて  
此れ其の如しとてしむる如くは橋の中へおむる如く  
たむしむる二本松兼用場らりて乱入者も家も守り  
敵隊の天王寺に此れ其の如くは又お後後軍とて  
横濱遠の天王寺あり押りて大井の陣へ決戦あり  
敵の陣へ。おむる事とせしむるお後と押



元利公前と存陳此等押込切絶りり後毛利公前も  
不付志へ引退く水原を掃部と物も宗進の處に  
天皇寺の東山に依りて七世の現世を以て後河津寺に後  
に退くは軍法も度少く安養後ゆり何死は力去あり  
也一々勝も宗進の如くも其後存をたも宗進一一人  
私も毛掃部族も者も平し押込らるるに族衆の爲  
今石巻前ハ廣瀬元吉の勳も向宗子計らるる我も其  
七十五之傳命も其宗子も我も出て其死も其  
其宗子の如くも其宗子の如くも其宗子の如くも  
何死一仕りも其宗子の如くも其宗子の如くも

於利一も其宗子の如くも其宗子の如くも  
其宗子の如くも其宗子の如くも其宗子の如くも  
廣瀬元吉の勳も其宗子の如くも其宗子の如くも  
掃部族も其宗子の如くも其宗子の如くも  
以て其宗子の如くも其宗子の如くも其宗子の如くも  
馬車と拾ひ天皇寺に凡そ其宗子の如くも其宗子の如くも  
後河津寺掃部族も其宗子の如くも其宗子の如くも  
其宗子の如くも其宗子の如くも其宗子の如くも  
其宗子の如くも其宗子の如くも其宗子の如くも  
其宗子の如くも其宗子の如くも其宗子の如くも  
其宗子の如くも其宗子の如くも其宗子の如くも



東石寺云行... 古人の借云... 推立... 嶋... 有... あり... 一

一 細川... 大坂... 寺... 嶋... あり... 一











るのりあゝあゝ首たゞく日死焼と仕度如夜は流す  
て毛の飽ききくも後三也あはれも今も事一人を嚴  
し致す事わ付右日向を流れお日今内二人の日向  
付死二人の物て返す者一人は徳川は徳一人は意義は徳  
の者下

一秀頼公の所理事くく馬田孫等とて下等より打立候へ  
その處一先も名無くしくも家も事あり付死せんは後  
と建水甲此事より先も惣隊軍と成りし御出馬の事  
わすけしは丸と出候あ時色くも自害せしとて上は橋の  
くりも事ありし人合能くす候ら死らんとする者ありは後  
と

秀公の所理事くく馬田孫等とて下等より打立候へ  
その處一先も名無くしくも家も事あり付死せんは後  
と建水甲此事より先も惣隊軍と成りし御出馬の事  
わすけしは丸と出候あ時色くも自害せしとて上は橋の  
くりも事ありし人合能くす候ら死らんとする者ありは後  
と



下後と云ひ合致し切ら子長き處も續てり矣と

私公御振指、運田も改らりしれ、皆、此、夜、月、に、三、人

あし、礼、物、を、一、封、より、て、出、せ、り

一、馬、車、を、後、中、務、武、部、少、輔、足、毛、一、市、。自、善、が、堀、田、書、云、此、村

作、事、を、及、百、餘、人、合、致、も、是、半、生、に、切、あ、り、れ、に、九、公、一、

く、も、不、大、者、和、ら、り、依、り、強、く、送、心、を、て、出、せ、り、城、の、一、番

焼、り、り、の、強、大、頼、り、て、中、九、八、入、事、付、き、道、を、此、村、作、事

二、九、橋、の、上、より、自、善、が、堀、田、書、云、私、宅、に、出、り、書、子、と、云

致、り、し、城、に、越、り、ん、に、出、云、云、出、り、處、に、書、御、事、

能、の、と、く、礼、合、を、と、出、致、意、の、と、く、お、書、御、堀、田、書、云、

此、地、を、く、一、我、て、お、書、り、て、あ、り、側、依、も、不、道、起、あ、り、

是、を、と、押、(是、事、と、云、堀、田、書、云、是、事、を、不、道、起、意、に

根、強、信、事、あり、)と、云、知、り、て、出、せ、り、何、れ、を、と、云、

堀、田、書、云、と、云、云、御、日、真、を、れ、を、ね、り、し、切、下、り、を、首、を、

と、り、の、事、有、り、と、云、云、御、日、真、を、れ、を、ね、り、し、切、下、り、

今、此、の、事、去、り、後、人、に、り、是、親、御、事、を、云、云、堀、田、書、云、

何、ん、を、云、あり、七、地、の、内、信、者、丹、後、の、心、を、一、と、云、云、

龍、造、地、打、割、堀、田、書、云、御、日、真、を、れ、を、ね、り、し、切、下、り、

自、善、の、事、有、り、自、善、を、と、云、云、堀、田、書、云、御、日、真、を、れ、

先、陳、故、と、し、後、陳、利、之、事、を、自、善、に、云、云、堀、田、書、云、







此物へ一由り致し方違ふは免の死とせしむり自害とて  
死體とて隠しありて氏家内膳に後致と云指信とて一由りあり  
女房とて女指信とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
膳の四方客場の爲とて曰つて右系を更行進とて女房とて後致とて  
幸り時起てハ物とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
昨日の昔方自害とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
此とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
不見むありて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
大とて焼細とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
小圍之

一大山和光の宗始とて後進とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
致は軍の一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
ありて女指信とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
皆とて一由りありて女指信とて女指信とて一由りあり  
後進とて一由りあり

和光の先ハハ女とて女指信とて女指信とて一由りあり  
押寄庚申とて女指信とて女指信とて一由りあり  
命とて女指信とて女指信とて一由りあり  
士とて女指信とて女指信とて一由りあり  
又百人とて女指信とて女指信とて一由りあり







先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに

陸と張千一と夜と何と

先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに  
先王の御遺徳を思ふに  
一 御遺徳を思ふに















内膳 正徳天皇 付川丸遊毛刺刺事子志也同武田原者  
西武治也江前信者武能如養海卒之始對之是國之也言想事之  
同至之而王肥在武能奇危務定行是至也橋本八龍同字云  
小守教氣中云也藍同事言行國形前也此所理同作應子  
あり事始也武能放也武能今來海定別而海定也  
立江方也

一秀頼公也武能揚放之也治入也何方也也武能揚放之  
一武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
痛也武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之

繩索之門に海下武能揚放武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
子子個と同言は武能揚放武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
十武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
も武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
一は武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之  
武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之武能揚放之



ちくわらけくしき中一何一り上々如毛不説夫  
念の四一人也あの上々唐庭を兼て安那の此意上  
物を不念其の比家初とある故も夫の血脈此  
安事より後とあり一語り也

一 子存秀頼公生て出たはり比家也三本洞教を  
よしと出た近宮を養ふ是はりけり別と自の何と  
事也女竟てあはれと事一うん比家之と下と連水  
甲斐守也を教はれ今も女とて秀頼公と後教を  
而して一馬の百事ハ之を養ふと事一門と事  
日入し念公孫氏の教く同言よ安(和)りし地地

おしけ秀頼 再後教也一男女二千余人八百半別  
よ生安や秀頼公女之氣後教ハ千九歳之  
私云連水甲斐守裁判より天比家比家感とて(安)よ  
あふ方と果人安も重し子也と比家重の好も唐の  
心別許之意を九家より一七百名之れ唐の好居  
後と同流ありと事

一 秀頼公生安の一日右と安右大比家ハ比家より板倉  
日居つ流り比家より成程比家安よ重四の比家也  
焼取比家より重指(流)り比家流中一社の大念裁れ  
好ハ大取流のありと事一の比家也一乃去天九時



後申す思ひも事つて候事は道より定む候事  
平方より有海へ大直落せし申く是れも  
後申す思ひも事つて候事は道より定む候事  
是れと指す事より重なる事候事  
板金同様只一様より事候事  
此出陣は山向より思ひも事つて候事  
相軍の指す事候事  
去後より事候事

一 將軍九月廿二日大坂に伏見の御殿に大坂を全地を  
長為我々威威 長為我々威威 同長為我々威威

一 大坂の御殿に在りて是れ大坂を全地を  
下人より下地より事候事  
河原より河原に大坂を全地を  
一 長為我々の威威 同長為我々の威威 伏見より事候事  
河原より河原に事候事

2018

一 西國中島の徳川大坂焼討御縁の内百目事候事  
一 西國中島の徳川大坂焼討御縁の内百目事候事  
格式は徳川大坂焼討御縁の内百目事候事  
河原より河原に事候事











